

学習課題（小学校1年生）



【こくご】おうちのひととけいかくをたててがくしゅうをしていきましょう。

<ペンキょうすること>

◆「あさの おひさま(26～27ページ)」をがくしゅうします。

- (1) おはなしをこえにだして、よんでみましょう。
- (2) ぶんやえをみて、どんなおひさまがおはなしのなかにでてきたのか、かんがえてみましょう。



おひさま

- (3) こえのおおきさやはやさをかえながら、おはなしをよんでみましょう。

あ	あ	あ	あ	あ
○	○	し	か	
○	か			
し				

「じやんぱんがらふんごう」

◆「たのしいな、ことばあそび(30～31ページ)」をみて、「いるか」「いのしし」をれんしゅうしてみましょう。

- (1) 129～130 ページにのっているひらがなひょうをみて、かきじゅんどおりにかいてみましょう。
- (2) とりくみシートや、ノートのます（しかく）から、はみださないようにかきましょう。
- (3) 「あ」や「い」のつくことばをあつめます。みぎの『ことばあそびのれい』をみて、○のところにはどんなひらがながはいるか、かんがえてみましょう。

い	い	い	い	い
○	○	し	か	
○	か			
し				



<保護者による関わり方のポイント>*可能な範囲でお願いします。

- ◆「あさの おひさま」では、おひさまのしたことや様子などを想像しながら、詩の音読をします。
 - ・(2) では、右記のやりとりの例を参考にしながら、おひさまの様子を考えます。想像した様子から、読み方の工夫を考えられるように関わっていただけたらと思います。
 - ・(3) の学習では、大人のあとに続いて読んでもらったり、一緒に声を出して読んだりするなど、楽しみながらくり返し音読させてあげてください。
- ◆「たのしいな、ことばあそび」では、身近なことやものを表す言葉を増やす学習をします。
 - ・(3) の学習で、まだ学習していないひらがなを使った言葉を見つけた時には、メモするなどの手助けをしてあげてください。

《やり取りの例:前半のまとめい》

- ・どんなおひさまかな？・大きいよ。
- ・どうして大きいと思ったのかな？
 ・ここに書いてあるから、わかったよ。
 (教科書の文を指さしてもらおう。)
- ・どれくらい大きいのかな？
 ・うんと大きいよ。
 ・これくらい大きいよ。
 (身振りで大きさを表してもいいです。)
- ・大きさが伝わるように、読み方をかえて、お話を読んでみてね。

【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの アドバイスです。

<べんきょうすること>

◆「なんばんめ」（きょうかしよ 24～26 ページ）

きょうかしよの 24 ページ をみてみよう。
どうぶつたちが かけっこをしているよ！

(1) ゴールに 2ばんめにちかい どうぶつは なにかな？

※とりがピンクのテープをくわえている
ほうがゴールだよ。

(2) ゴールから いちばんとおいところを はしっている どうぶつは
なにかな？

※きょうかしよに まるで しるしを
つけてもいいよ。

きょうかしよ 24 ページのねずみが えのかいたかみをもっているよ！

(3) まえから 3ばんめの ねずみが もっている
かみにかかれた えをまるで かこもう。

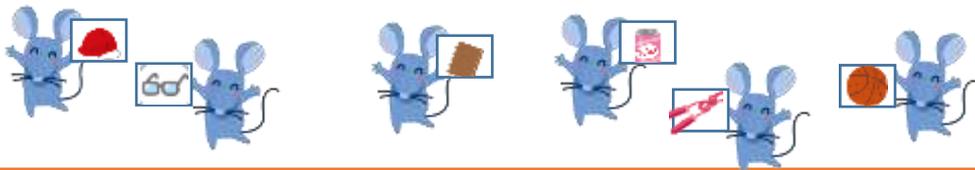
※きよくかしよにまるをかこう。



(4) まえから 3びきの ねずみが もっている
かみにかかれた えをまるで かこもう。

※おうちのひとに ことばで つたえても いいよ。

まえ



うしろ

あれ？ (3)のもんだい と (4)のもんだい では
おなじ えを かこむことになるの？



「まえから 3ばんめ」と「まえから 3びき」は
なにが ちがうところは あるのかな？

「なんびきか」、「なんばんめか」、かんがえよう

ここにならんでいる えは 12しです。



- (1) まえから  (いぬ) までで ぴき です。
- (2)  (いぬ) は まえから ばんめ です。
- (3) うしろから  (うさぎ) までで ひき です。



- (4) まえから 3びきを えんぴつで かこんでみましょう。
- (5) うしろから 3ばんめの どうぶつを あかえんぴつでかこもう。

<この べんきょうで、わかったことや、きづいたこと、おもしろかったところを、おうちのひとに おはなししてみよう。>

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆なんばんめ（教科書 P24～26）

- ・<はてな？>にある課題は、通常であれば、学校生活の中でも学んでいきます。家庭生活の中でも、「みかんが3個」といった集合をあらわす数や「左から3番目のチューリップは黄色だね」といった順序を表す数を子どもと見付けてみてください。
- ・十二支については、幼児期に絵本等で読んだことがある子もいるかもしれません。思い出させながら、「ねずみが1番だね」とか、「いのししが最後だね」とお話しする中で、順番を表す数について触れていただけると、子どもの理解も深まると思います。

【たいいく】

けがをしないよう、まわりをよくたしかめて取り組みましょう。道具を使うときは、かたい物や割れる物は使わず、安全に行いましょう。

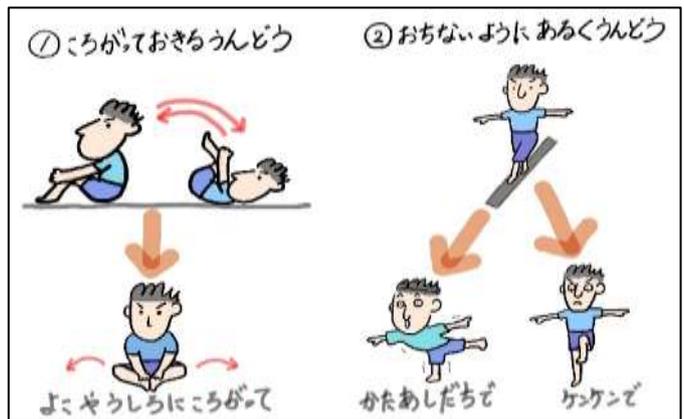
<べんきょうすること>

※^みど^うが^を見^ると^きは、^みぎ^のQR^コド^をつ^かっ^てく^ださ^い。



◆「からだのバランスをとる運動」にとりくみましょう。

(1) ①の「ころがっておきあがる運動」と②の「しんぶんしなどの上をおちないようにあるく運動」にチャレンジしてみましよう。



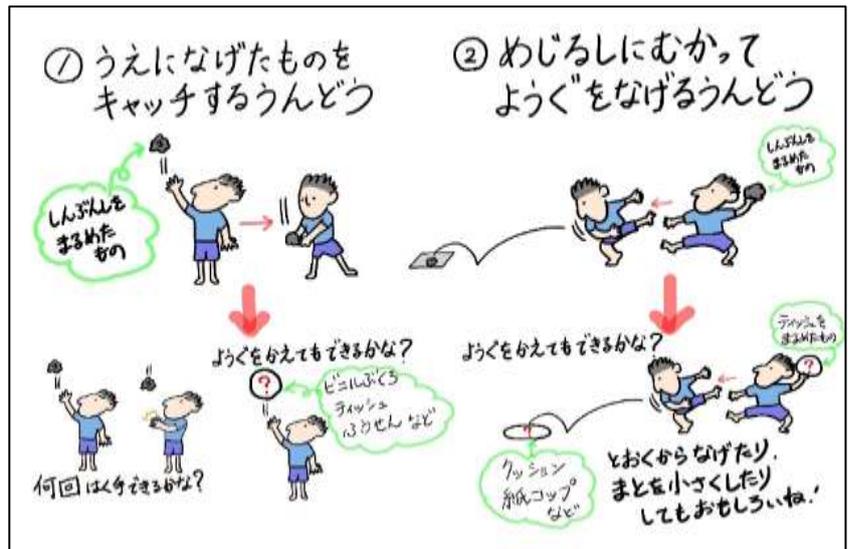
(2) しせい^をか^えて^チャ^レン^ジして^みま^しよ^う。

(3) ほ^かの^しせい^もか^んが^えて、^チャ^レン^ジして^みま^しよ^う。

◆「ようぐをそうさする運動」にとりくみましょう。

(1) ①の「うえになげたものをキャッチする運動」と、②の「目印に向かっ^てようぐをなげる運動」にチャレンジしてみましよう。

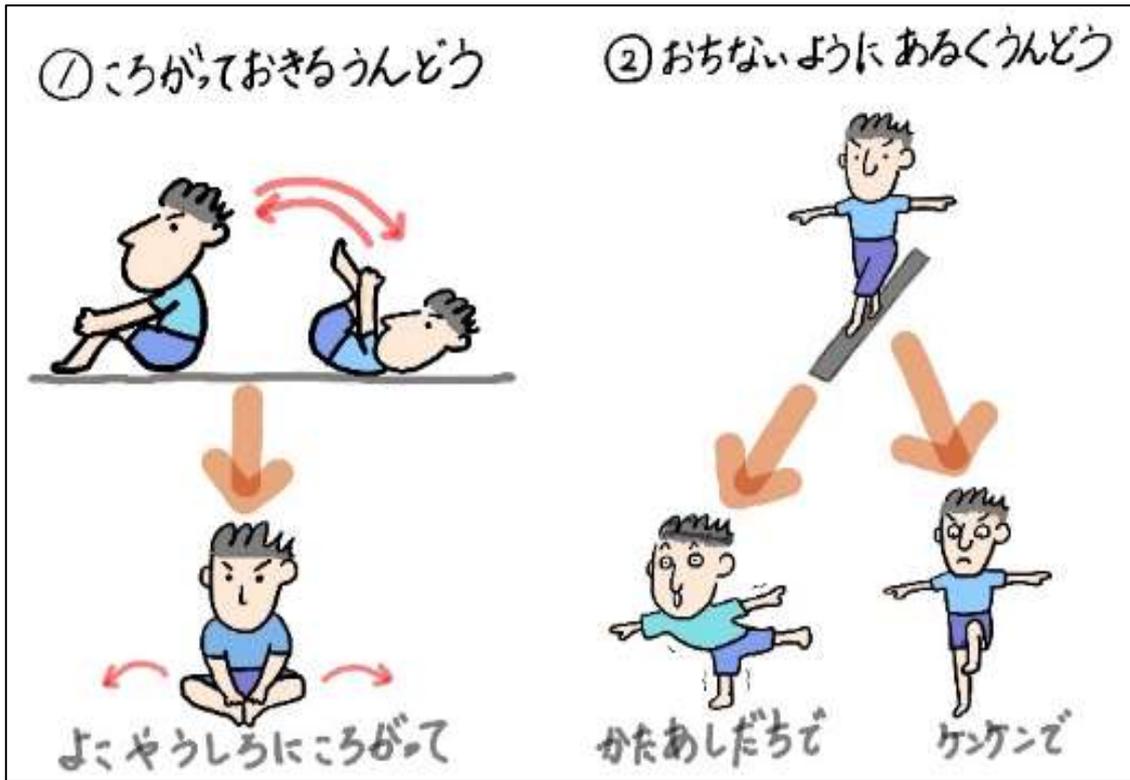
(2) つ^かう^よう^ぐを^かえ^たり、^いろ^いろ^な動^きを^くわ^えた^りし^てく^ふう^して^みま^しよ^う。



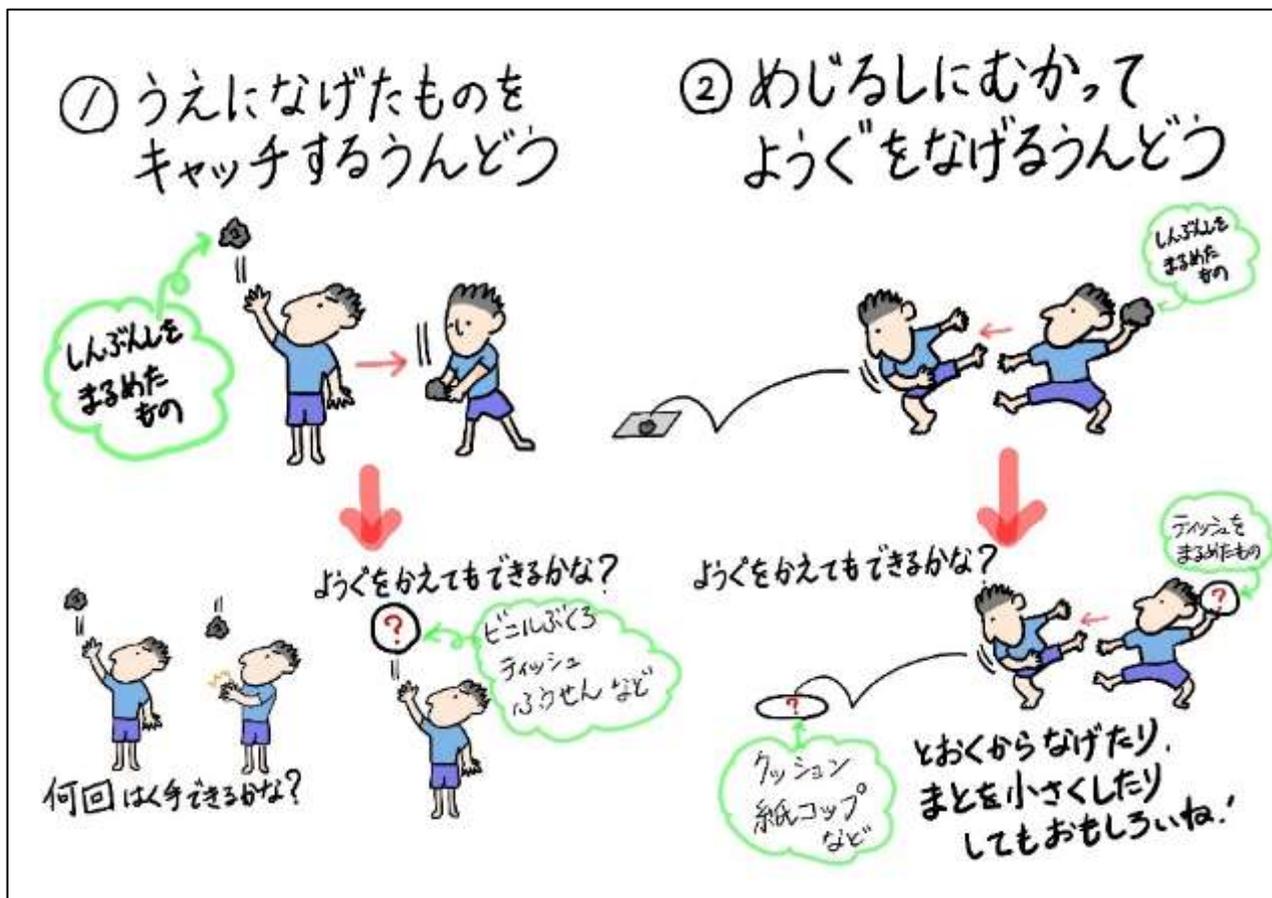
<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

- ・体づくり運動は、運動の楽しさを味わいながら、体の基本的な動きを身に付けていくことを目指しています。また、自分に合った運動の行い方を工夫できるようにすることも大切にしています。
- ・失敗しても何度もチャレンジしたり、時間や距離を変えるなどの仕方をしたりする姿を、ぜひほめていただきたいと思います。

「からだの^{ばらんす}バランスをとる^{うんどう}運動」



「ようぐを^{うんどう}そうさする運動」



パソコンなどで、**みたりきいたりできるひとは、とりくんでみましょう。**
【おんがく】

＜べんきょうすること＞

◆おんがくにあわせて、からだをうごかしながら『さんぽ』（きょうかしよ 12～13 ページ）をうたいましょう。

(1) 『さんぽ』をききましょう。いっしょにうたえるひとはうたってみましょう。



(2) おんがくにぴったりあうようにてびょうしをしながら1ばんをうたってみましょう。（12 ページしたのえをみて、おなじようにやってみましょう。）

(3) いまのてびょうしを、おんがくの「はく」といいます。こんどは、「はく」にあうように、あしぶみをしたり、こうしんしたりしながら、もういちど『さんぽ』をききましょう。

※「さかみち」「とんねる」「いっぽんばし」などのところは、ことばにあわせてうごきをつけてもたのしいですね。

◆『さんちゃんが』（きょうかしよ 62 ページ）をきいたりうたったりして、えかきうたをたのしみましょう。

(1) まずは、『さんちゃんが』をきいてみましょう。

(2) つぎは、『さんちゃんが』のえかきうたのやりかたを、どうがでみてたしかめましょう。



(3) えかきうたのやりかたがわかったら、どうがにあわせていっしょにかきながらうたいましょう。なれてきたら、すこしはやくしたり、めをつぶってかいたりしてたのしみましょう。



※えかきうたには、ほかにもいろいろなしゅるいがあります。おうちのひとにおしえてもらったり、しらべてみたりしてみましょう。

＜保護者による関わり方のポイント＞ ※可能な範囲でお願いします。

- ・足踏みや行進が難しければ、「腕を振る」「人形などを動かす」などでも構いません。子どもは、この曲で初めて『拍』を意識します。「拍にぴったり合っているね。」など、拍を意識して体を動かすことができている姿を大いにほめてあげてください。
- ・かぞえうたや手遊びうたは、楽しく遊びながら日本の音階に親しむことのできるものです。『さんちゃんが』の学習では、お家の方が知っている絵描き歌について教えてあげたり、一緒に調べてみたりするほかにも、お子さんの好きなキャラクターの絵描き歌を作ってみる活動なども考えられます。お子さんと一緒に楽しんでいただければと思います。